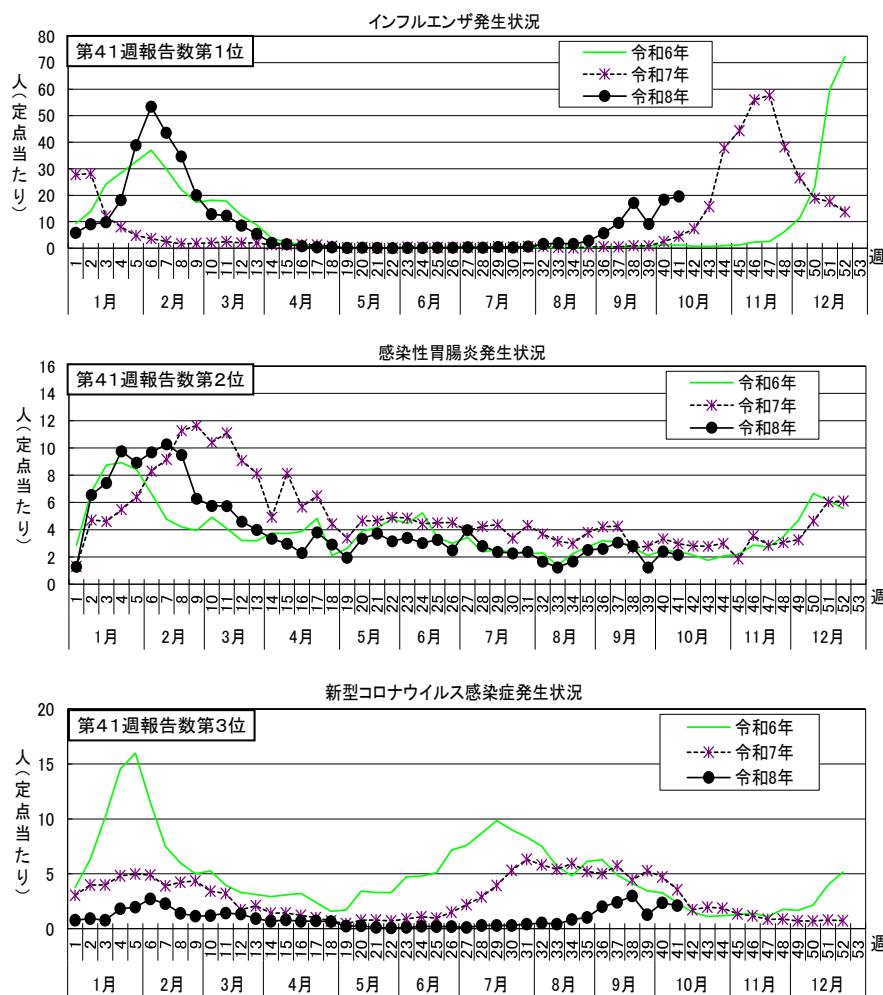


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和8年10月5日（月）～令和8年10月11日（日）〔令和8年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は19.59人と前週（18.34人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.16人と前週（2.41人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.10人と前週（2.36人）から横ばいでした。

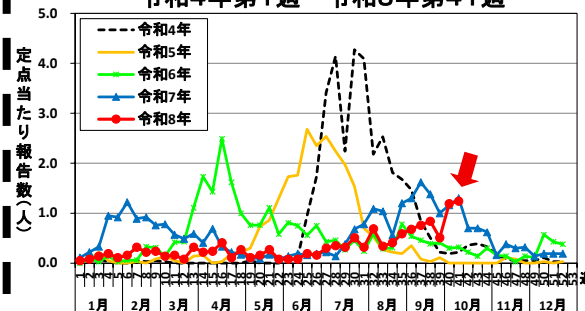


RSウイルス感染症の報告数が徐々に増加しています！

川崎市における令和8年のRSウイルス感染症の定点当たり報告数は、第27週（6月29日～7月5日）には0.30人でしたが、その後徐々に増加し、第41週（10月5日～10月11日）には1.24人となりました。RSウイルス感染症は、ほぼ全ての乳幼児が2歳までに少なくとも一度は感染するとされています。特に、生後6か月以内の乳児が初めて感染すると、細気管支炎や肺炎等を起こし重症化することがあります。

免疫機能が未熟な乳児を守るために、妊婦にワクチンを接種し母体内で作られた抗体を胎児へ移行させる「母子免疫ワクチン」が、令和8年4月から定期接種となりました。対象の方は接種を御検討ください。

川崎市におけるRSウイルス感染症発生状況
令和4年第1週～令和8年第41週



RSウイルス感染症とは？

- 【感染経路】 咳やくしゃみなどによる飛沫感染
ウイルスのついた手指や物による接触感染
- 【潜伏期間】 2～8日（典型的には4～6日）
- 【症状】 発熱・咳・鼻水などの風邪様症状が数日続く。多くは自然軽快するが、肺炎等へ進展する場合もある。

RSウイルス感染症に対する母子免疫ワクチンの定期接種

- 【対象者】 接種時点で、妊娠28週0日から36週6日までの妊婦の方
- 【効果】 出生後に赤ちゃんがRSウイルス感染症に罹患した際の重症化予防
- 【接種回数】 妊娠ごとに1回
- 【自己負担】 なし



※詳細は川崎市ホームページをご覧ください。